

通級だより

静岡聴覚特別支援学校

通級指導教室

2023年3月

NO.10



1年間御協力
ありがとうございました。

通級生の集いを実施しました

2月25日(土)に通級生の集い(まとめの会)を行い、12人の通級生が参加しました。さらに、4月から通級生となるお子さんも6人参加し、合計18人が参加してくれました。そこに、御家族の皆さんも加わり、活気のある会となりました。

今回は、コロナ対応で、大里生涯学習センターを利用し、まとめの作文発表会は、定員100名の第1集会室という立派な会場で行いました。晴れの舞台にふさわしい会場でしたが、通級生のみなさんにとっては、緊張が高まる場でもあったと思います。心臓のドキドキする音が聞こえるくらい緊張しながらも、皆さん立派に堂々と発表してくれました。中学生や小学校高学年の人たちは、司会や挨拶の言葉もしっかりと言ってくれました。

発表会の後には、参加者のみなさんに感想を書いていただきました。「まとめの会」としては、3年ぶりの開催ということもあり、通級生からは「通級の仲間の学校生活の様子や考えが分かってよかった。」「みんな、私と同じことを思っているんだ!」と共感の声が多く上がりました。

後半は、通級生と保護者に分かれ、通級生は「ゲーム活動」で親睦を深め、保護者の皆様は「情報交換会」で日頃疑問に思っていることを挙げ、上級生の保護者から経験に基づく助言をいただきました。

※ゲーム活動と情報交換会の様子と内容は、裏面にて紹介させていただきます。

※まとめの作文は、文集にまとめて、後日、通級生のみなさんと在籍校担任の先生方に配布させていただきます。



<保護者の皆様へ> ~次年度に向けて~



①次年度の時間割

- ・3月末までに時間割を仮決定し、「曜日・時間帯・開始日」の予定をお知らせします。
- ・4月に入って、通級担当が確定してから、「曜日・時間帯・開始日・担当者」を正式決定した内容を連絡いたします。

②書類「個別の指導計画」

- ・今年度ものは、通級の時間にお渡し、または郵送いたします。
- ・次年度の書類作成に向けて、「本人の願い」「保護者の願い」「通級を希望する理由」を聞き取らせていただきます。

③通級指導で使ったプリント類

- ・通級指導の終わりに一度まとめてお渡しします。春休みの間に目を通していただき、新年度の初回の指導のときにお持ちください。新しい通級担当が引継ぎの参考にさせていただきます。

※担当によっては、指導日にプリント類をその都度お渡ししている場合もあります。

第3回通級生の集い 「ゲーム活動」



ゲーム活動では、「ピンポン玉リレー」を行いました。幼稚園の年少から中学3年生まで幅広い年齢が混じり、3チームに分かれて競争しました。

ピンポン玉をたくさん運ぶにはどうしたらよいか、各チームで、年齢の高いお兄さんお姉さんを中心に作戦を立てて挑みました。自己紹介では緊張していた様子でしたが、リレーの順番や、ボールの渡し方など意見を出し合う姿が見られ、徐々に打ち解けていきました。

「ピンポン玉リレー」ルール

- ・ピンポン玉をスプーンに乗せ、順番にリレーする。
- ・時間内にピンポン玉をたくさん運べたチームが勝ち。
- ・ピンポン玉を手で押さえてはいけない。
- ・ピンポン玉を落としてしまったら、落とした人が拾う。

どのチームも「よーいスタート」の合図で静まり返り、ボールを落とさないように慎重にリレーしていく様子が印象的でした。「終了！」の合図でチームのみんなが集まり、ピンポン玉の数を数えて「〇個だ!」「やった!」と喜び合っていました。4回戦行った結果は、青チームの勝利でしたが、どのチームも交流を深めるという目標を達成することができたと思います。

まずは自己紹介から。自分の名前、学年、好きな食べ物や遊びを紹介しました。



順番はどうする?
各チームで作戦を立てました。

ピンポン玉を落とさないように
そーっと渡しました。



第3回通級生の集い 情報交換会

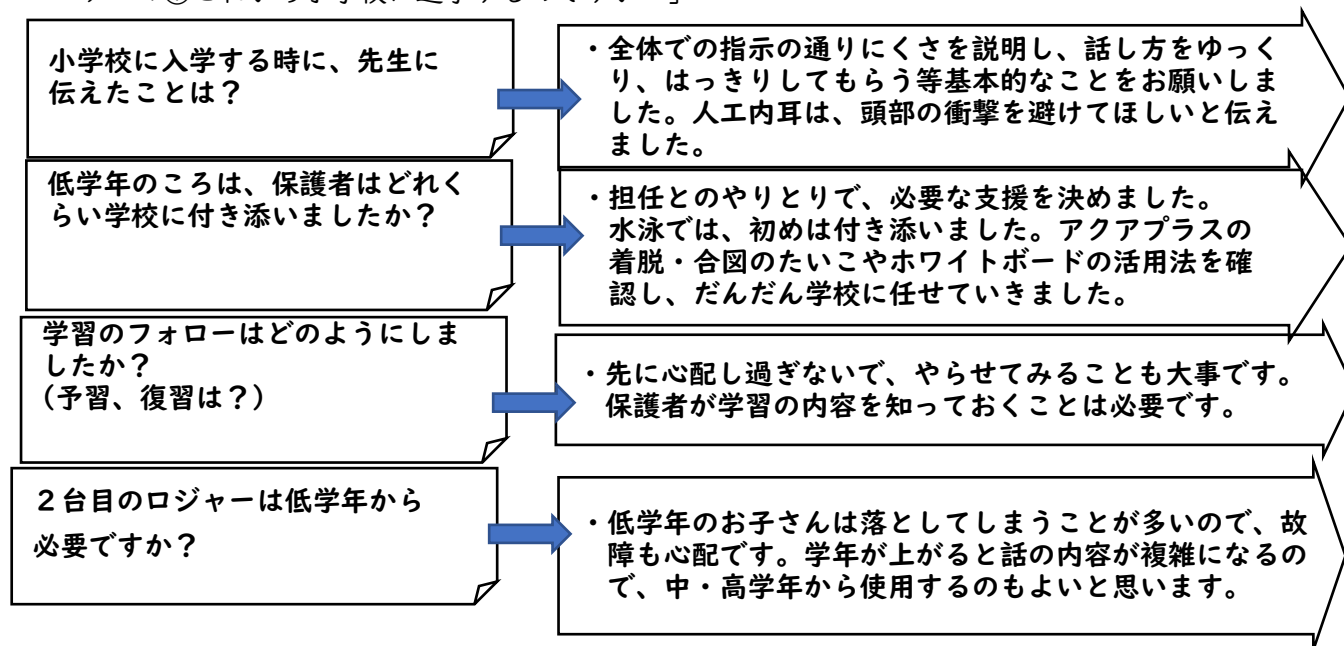


情報交換会は、17組の方に御参加いただきました。主な内容を紹介します。

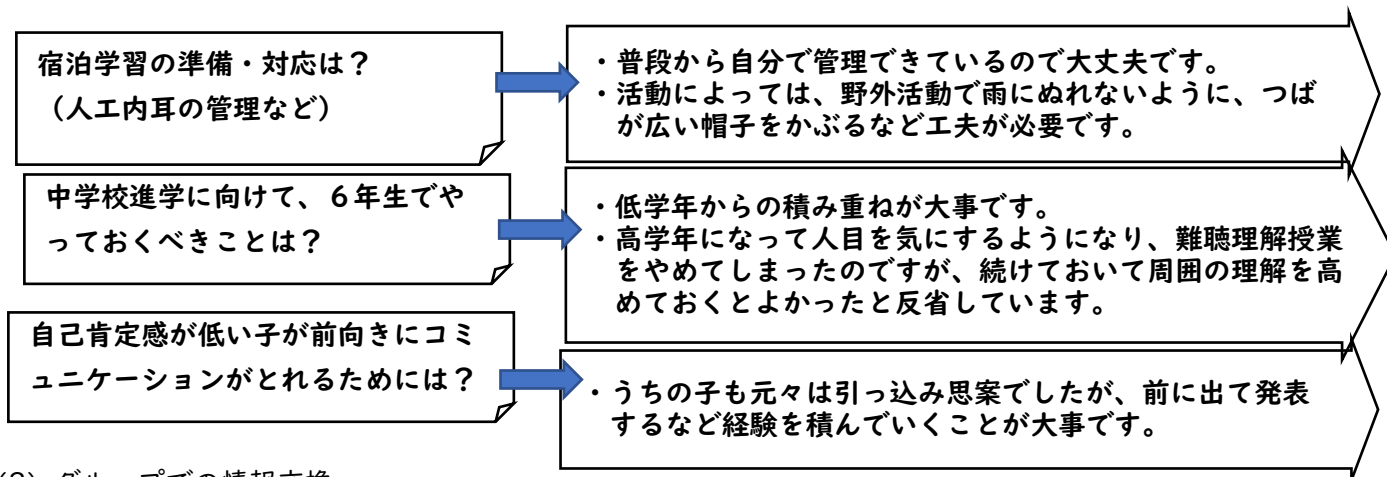
(1) 全体会

事前アンケートでいただいた御質問をもとに情報交換を行いました。上級生の保護者を中心に、御経験を生かした的確で具体的なアドバイスをたくさんいただきました。

「テーマ①これから小学校に進学するのですが…」



「テーマ②通級生のお悩みあれこれ…」



(2) グループでの情報交換

3つのグループに分かれて、普段気になっていることや、小学校への進学に向けて不安に思っていることなどを情報交換していただきました。今回は、高学年から低学年、新規生をミックスした縦割りグループで行いました。十分な時間が確保できず申し訳ありませんでしたが、どのグループも熱い意見が交わされ、充実した話し合いをされていました。

2月のスキルちゃん

「わかりましたか?」「わかった?」と聞いて、済ませていませんか。

※「わかった。」という言葉には、さまざまなレベルがあります。

- ① 「わかった?」と先生が言ったことが「わかった。」
- ② 「わかる言葉」があった。
- ③ 「わかった?」の問いかけを口声模倣(まね)してた。
- ④ とりあえず「わかった」と言っておけば叱られない。
面倒くさくない。

「わかった」と返すことが癖になっている場合もあります。



何がわかっているのか、教師は確認する技術を持ちましょう。(言葉の動作化、5W1Hで質問するなど)

例:「三太郎には、桃太郎と金太郎と浦島太郎がいるね。」「鬼を退治したのは桃太郎、クマと相撲をとったのは金太郎。」「カメを助けたのは浦島太郎だね。」

T:「わかった?」
C:「わかった。」
T:「だれが、鬼を退治したのかな?」
C:「ももたろう!」
※だれがWhoを先に質問するようにします。



～発音・発語のポイント～ 拗音(「きゃ」「きゅ」「きょ」のように小さなや・ゆ・よが付いた音)

例)「きゃ」は「き」と「や」を素早く続けて言って発音する。右の図のように、「きーやー」と続けて言う練習をする。だんだん「きー」を短くしていく。ポイントは「き」と「や」のつながり(子音から母音へのつながり=わたり)をなめらかに言うように心がける。他の拗音も同じ調音の仕方をする。

